

おかやまアーツフェスティバル2024

岡山市民の文芸

第56回岡山市民文芸祭受賞作品

ジュニアの部

【詩】

◎岡山市長賞

窓の世界

安田健佑（西大寺中一年）

歩いていてふと思ったことがある。

——窓は不思議だ

なぜ不思議と思ったかというと、

窓に映った景色を見たからだ。

その景色を見たときに考えたことがあるからだ。

あるからだ。

考えたことは

窓はなぜ

向こうの景色を通して見れるのに

こちらの景色が映って見えるのか、

ということだ。

私はこのとき、窓に映っている

向こうの景色とも

こちらの景色ともいえない

不思議な景色を

一つの「世界」のように感じた。

でもその世界は窓によってそれぞれ違う。

同じように見えて違う。

それが窓の「世界」なんだ。

◇岡山市教育委員会教育長賞

スーパーマン2号になりたい

松原珠喜(横井小五年)

私のお母さんは、
何の役でもできるスーパーマンです。
このスーパーマンは、
お母さん役、
バスケのコーチ役、
バスケのしんぱん役、
しかる役とか
たくさん役をしています。
スーパーマンは、ときどきつかれて、
たたみやソファーにたおれます。
たおれてしまうと、
弟も妹も好き勝手にしてしまうので、
大変です。
なんだかんだスーパーマンは休めずに、
ずっと動いています。
そんなスーパーマンを見て私は、
少し「やりすぎじゃね？」って思いながら見えています。
けど、スーパーマンには、
つかれた時の最強のアイテムがあります。

それは、ビールです。
ビールは、あのスーパーマンのガソリンのような物です。
そんなスーパーマンが私は好きなので、
そんなスーパーマンを助けられる
スーパーマン2号に私はなりたくない。

◇岡山市教育委員会教育長賞

もうすぐ一さいになるおとうと

依田 葉奈（馬屋下小二年）

わたしにはもうすぐ一さいになる
おとうとがいる
名前はみなど
よだれがたくさん出る
わたしがベッドにねころんでいたら
ずつきをしてくる
とつてもいたい
ごはんをたべているときに
下から上にはい上がってくる
上がってきたらごはんがすすまん
きのうなかなかねないとおもったら
いつの間にかいっしょにねていたパ
パとママにおしえたら
「すごいね」といってくれた
わたしはうれしかった
きのうはじめておとうとが
「ちやちや」といえた
いつもなんていつてるのかわからんけど
「おちや」のことだつてわかった
すこしまえにはじめて立てるようになった
さつきは びょうちかく立てた
ながく立ててびつくりした
たまに手をパチパチするときがある
なにしているかわかんないけど
気もちはわかる
そんなおとうとがわたしはだいすきだ
だれにもわたしはたたくない
わたしのたからもの

【短歌】

◎岡山市長賞

朝どれのトマトの赤がまぶしくて姉妹はじつと目を細めている

佐々田 陽 華（県立岡山聾学校中学部二年）

◇岡山市教育委員会教育長賞

海中にたのしそうだね魚たちこつそりとだね笑ってそうだ

市 明 煌（第二藤田小五年）

プチトマトわたしがそだてたあかいみはすっぱくあまくてみんなをえがおに

陶 山 凜 花（第二藤田小一年）

【俳句】

◎岡山市長賞

迎え火のけむり見上げて祖父思う

小 野 仁 士（芳泉中三年）

◇岡山市教育委員会教育長賞

父とオレつないでくれるネギの味

近 藤 悠 人（岡山後楽館中三年）

ママとパパとてもなかよしこいのぼり

和 氣 綾 音（庄内小三年）

【川柳】

◎岡山市長賞

大丈夫ヘアがいるからつよいんだ

寺 島 勇 汰（京山中一年）

◇岡山市教育委員会教育長賞

クロールが泳げるようになった夏

堀 下 朋 希（芳田小四年）

ありがとうすなおになれず思うだけ

樋 口 董（京山中一年）